

木の家づくりを通じて暮らしを提案する

KoKola**b**.

隔月刊ココラボ通信

NO. 105
2023.October

完成現場報告 改修事例 島田市 / 『移ろいの家』

思い出を繋ぎ、
新しい暮らしを歩む。



P2) 土間空間より吹き抜けのあるダイニングを見る。元々床の間のある和室を改修し、一段下がった土間空間をつくった。土間にはお気に入りの家具と薪ストーブを設置し、日々の生活の中でもゆとりを感じ事の出来る空間になった。

2階の寝室の床を外して吹き抜けをつくった。2階の窓からの光が1階まで差し込み、とても明るい室内になった。吹き抜けを通る薪ストーブの煙突もこの部屋のポイント。縦に伸びる空間にマッチした薪ストーブとなった。

きく、携帯電話の普及や仕事のIT化、また環境に対する考え方や食品の安全性など、住宅だけでなくあらゆる面で変化してきた時代だと思えます。生活や仕事など、時代に合わせた暮らしは徐々に変えていけますが、容易に変化が出来ないのが住まいです。耐震性や断熱性が低いからといって簡単に建て替えや住み替えが出来る人は少なく、リフォームと合わせて耐震工事や断熱工事を行う方も増えてきました。今回ご紹介するKさんのお宅も、元々ご両親と同居していた住まいを改修して新しい住まいをつくりました。築40年程経過しているという事もあり、間取りや設備を新しくする事と同時に、耐震工事と断熱の改修工事も行いました。改修工事は耐震工事や断熱工事を含めると想像以上にコストが掛かり、もはや新築と変わらないのでは？と思う方も多いと思いますが、今回は、屋根瓦と外壁の一部をそのまま利用し、室内の改修工事に集中した計画とする事で、全体のコストを調整しながら計画を進めていきました。室内はほとんどの部屋の壁や天井、床を外し、吹き抜けをつくったり階段の位置を変えたりと大掛かりな工事となりましたが、住まいが完成し、とても明るく気持ちの良い住まいになり、思い切った改修工事をして良かったと喜んでいただきました。今回は、Kさんの住まいの紹介を通し、改修工事のポイントなどもお伝えしたいと思います。

思い出を繋ぎ、新しい暮らしを歩む。

完成現場報告 改修事例
島田市『移ろいの家』
文・写真／コロボ 山崎健治



数年前まで家づくりといえば新築住宅の計画が多く、実家の建て替えや新しい土地を購入しての家づくりが主流でした。特に核家族が進む中、土地探しから家づくりを行う方が増え、分譲地や建売住宅など、どんどん新しい家が増えていきました。新しい家は時代の流れなのか、高気密高断熱や高耐震住宅などの性能を重視させた商品が提案され、また省エネやCO₂排出削減など、国の制度を巻き込んで、年々新しい基準が生まれ、それに合わせて住宅の価値観が大きく変わっていきました。家の性能が上がり、安全に快適に暮らしていく事が出来るのもとても良いと思いますが、少し前の既存住宅とのギャップが大きく、築30年以上経つ住宅を調査すると、現代の住宅に比べ、耐震や断熱の性能の違いに驚かされます。30年という時間の流れはとても大

Before



元々の玄関には階段とトイレがあり、広さはあるものの、動線的に使いにくい空間だった。また、玄関扉が北側に向いていたため、窓も小さかったため、少し薄暗い印象の玄関だった。

After

玄関ホール

杉板と漆喰で、明るく優しい雰囲気のある玄関をつくった。元々階段やトイレがあった空間だが、それらを他の場所に移動した事でゆとりのある玄関となった。ベンチや式台などをつくりつけ、来客にも優しい玄関となった。



After

ダイニングキッチン

アイランド型のキッチンを中心に、回遊性のあるキッチン動線をつくった。アイランドキッチンは、広い作業台がとても使いやすく、ストレスなく作業ができる。アイランドキッチンの下部を食器棚として利用している。お気に入りの食器が見える扉にし、とても気に入っていると喜んでいただいた。

Before



元々のキッチンはL型で吊り戸棚のあるキッチンだった。高い場所の収納は使いづらく苦労していた。キッチンは少し奥まった位置にあるため、日中でも暗く電気をつけて生活していた。収納と明るさを改善したいと強い希望があった。



**吹き抜けを中心とした
楽しい空間**

Kさんの要望は様々ありましたが、一番の希望は明るい室内にする事でした。敷地の南側に隣家が建ち、大きな窓はあっても光が入らない室内で、また隣家が気になるのでいつもカーテンを引き、日中でも電気をつけて暮らしていました。この問題に対し、2階の寝室として使われていた部屋の床を外して吹き抜けとし、2階からの光を1階に落とす事で明るい室内を提案しました。吹き抜けは、既存の窓を使いながら南と東から光を取り込む事が出来、吹き抜けを通して2階の部屋にも明るい光を届けてくれます。新しいキッチンはアイランド型の回遊性のあるキッチンとしました。アイランドキッチンの下は食器棚としても利用し、お気に入りのカップやお皿などが見えるようにしました。今まで集めてきた小物や食器などを飾ることが出来て、生活にゆとりが生まれたと喜んでいただきました。今回の改修工事をきっかけに、憧れのあった薪ストーブを土間に設置しました。薪ストーブは伝兵堂さんのシヨールームにあった縦長のタイプに一目惚れ。縦に伸びる空間にマッチした薪ストーブとなりました。

**来客を迎える
広く明るい玄関**

玄関の位置は既存の配置のままですが、元々は玄関の一角に階段とトイレのある空間でした。広い玄関ではありませんでしたが、収納が少なく、少し暗い事が気になっていました。また、2階への動線として階段のある玄関を通る事になり、トイレも同じく玄関を通る利用のため、来客時などは使いにくい配置となっていました。新しい提案では、階段とトイレを他の位置に変更したいと思いました。階段は2階の部屋との動線も考えて、2階の中心位置に上がる配置としました。リビングのポイントにもなるので、アイアンで製作し、軽やかで存在感のある階段を設置しました。トイレは浴室などの水廻りに近い場所に配置しました。キッチンや浴室などの水廻りを集中させる事で配管経路を短くする事も出来、無理のない計画をする事ができます。元々トイレのあったスペースには、1帖の玄関収納をつくりました。元々玄関収納が少なかったもので、家族の靴や外部用品を集中して収納する事ができて便利な場所になりました。玄関は来客を迎える場所として余裕をもちたいと考えていたので、ベンチを配置したり、天井と壁に杉板を張ったりと、優しくゆとりのある玄関をつくる事ができました。



玄関ポーチ 外観は大きく変化していないが、玄関建具を新しく作り変え、一部の外壁を塗り壁にした。元々駐車場だった場所にご主人のバイク置き場を設置し、家族各々の暮らしが楽しくなった。



玄関ホール 杉板の壁を背面にして、ベンチと手摺を取り付けた。木の優しさが空間を包み込み、心地よい玄関ホールになった。



寝室 元々ご両親の寝室だった和室を夫婦の寝室とした。障子は再利用し、当時の雰囲気を残している。家の改修と合わせてお仏壇を新しくした。上下別々で購入したと聞いたが、この家にぴったりのお仏壇で、空間にマッチしている。

浴室 元々ユニットバスにリフォームされていた浴室だが、思い切って青森ヒバのハーフバスにつくり変えた。香りが良く安らぐ浴室となり、やってよかったと喜んでいただいた。



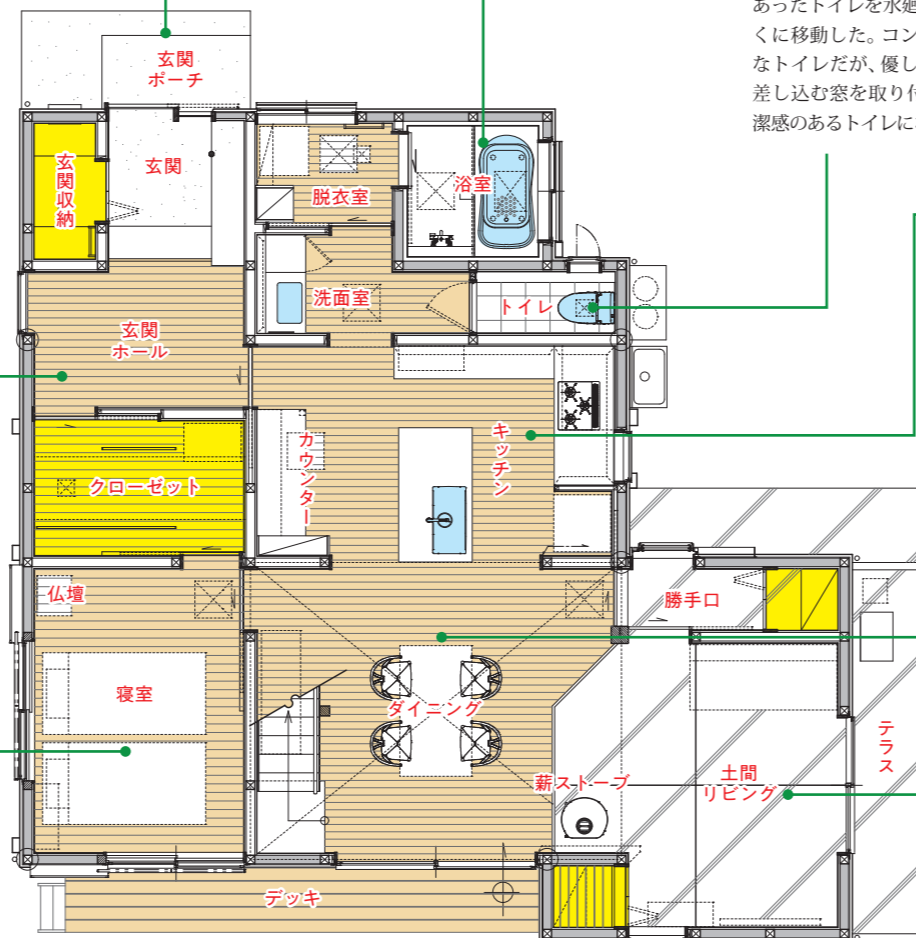
トイレ 元々玄関近くにあったトイレを水廻りの近くに移動した。コンパクトなトイレだが、優しい光が差し込む窓を取り付け、清潔感のあるトイレになった。



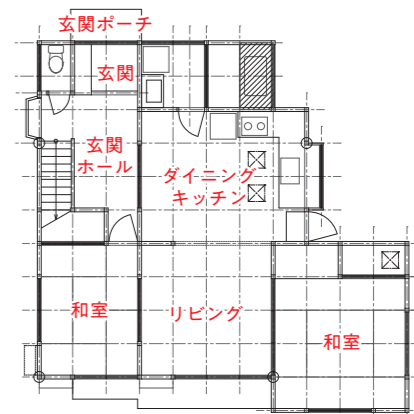
キッチン ダイニングからキッチンを見る。アイランド型のキッチンとする事で回遊性が生まれ、使いやすいキッチンとなった。キッチン家電も配置を決めて設計し、綺麗に納まっている。



土間リビング 畳の部屋を土間空間につくり変えた。あえて見えるようにした屋根裏にあった太鼓梁がこの空間のポイントになっている。



After 1F 平面図



Before 改装前 1F 平面図



ダイニング 明るく開放的な吹き抜けの空間。2階の窓から一日中光が差し込み、気持ちの良い空間となった。南の隣家との間に板塀を設け、視線も気にならないようになった。

事前調査が成功の鍵

改修計画を行う際、新築のように全てが自由に出来る訳ではなく、既存の構造や設備に合わせた計画が重要になります。外周部であれば既存の窓を再利用したり、状態が良ければ屋根や外壁をそのまま利用する事もあります。内部であれば、柱の位置や梁の掛かり方などに合わせて新しい壁を設けるなど、なるべく改修する部分を減らし、既存部分を利用していく事が無理の無い計画となり、工期やコストを減らすポイントにもつながります。今回Kさんの改修事例を見ると、元々8畳の和室だった部屋を利用して土間空間を計画したり、キッチンや浴室などの水廻りも既存の位置に近い配置にしています。要望やプランの関係で配置を合わせる事が難しい場合もありますが、初期の提案の時から最終的な計画を見越して設計していく事が無理と無駄の少ない工事につながっていくと考えています。これらの計画に対し、重要なのは何と云っても事前調査です。屋根裏に潜り梁の掛かり方を調べておく事、また床下に潜り、基礎の位置や土台、筋違いの位置などを把握する事が重要です。事前調査で全て把握出来るわけでもないですが、調査から分かる事で予想を立て、実際の工事で微調整しながら進めて行く事が重要です。今回の工事の中で以外と手間がかかった事に段差の解消がありました。現代の住まいは段差の無いバリフリーな作りが当たり前ですが、一昔前の住まいは和室と洋室に段差があったり、部屋と部屋の中に敷居の段差があったりと、以外と部屋の中に段差があります。床を外してしまえば問題ないように思いますが、下地から段差を調整していかなくては無い部屋もあり、段差を解消する工事は以外と苦労しました。事前調査をする事で既存の障子や建具を利用したり、天井裏に隠れていた太鼓梁を現したりと、改修工事ならではの楽しみに繋げていく事もできます。

住宅医が提案する 改修工事のおさえておきたいポイント

新築住宅と違い、改修工事は既存の建物を知るところから始まります。先人の職人がつくった建物に対し、壁や天井、床下などをくまなく見て、建物全体のつくりを知り、どのように改修していくのが良いか？方針を決めて進めていきます。大切なポイントはいくつかありますが、何と言っても事前調査が大切です。梁の組み方や基礎の区画、断熱材の様子や設備の状況など、調査ポイントは部位別に色々ありますが、それらの情報をまとめ、『住まいの診断書』を作成しておくことで、いつでも見直す事が出来、次の判断をするときに役立ちます。工事がスタートし、まずは解体範囲を決めて指示する事も大切なポイントです。どこを解体して何を残すか？判断を間違えると、無駄な工事を行ったり、後で手間が増えてしまう事もあります。改修工事の解体は手バラし工事と呼ばれ、職人が手で内部の壁や床、天井などを解体します。判断に迷う事もあるので、現場に書き込みをしたり、シールを貼ったりしながら、解体範囲を指示します。改修工事の中で耐震工事は重要な工事になります。金物の設置や新しい耐力壁の設置、時には柱や梁を移動する事も必要になります。改修工事は新築工事で違い、設計図通りに進まない箇所が多く存在します。設計者の判断や現場担当者の経験がとても重要で、良い舵取りが良い改修工事につながっていきます。



1. 屋根裏の様子。梁の組み方や大きさを調査し、金物などについても調べる。
2. 床下の様子。基礎の区画や状態、床下断熱や土間コンクリートの有無を調べる。
3. 解体の様子。どこまで解体するか？解体屋の職人と細かく打合せし、スムーズな工事が行えるように判断する。
4. 耐震工事の様子。柱一本一本について金物をチェックし、必要な箇所を補強していく。

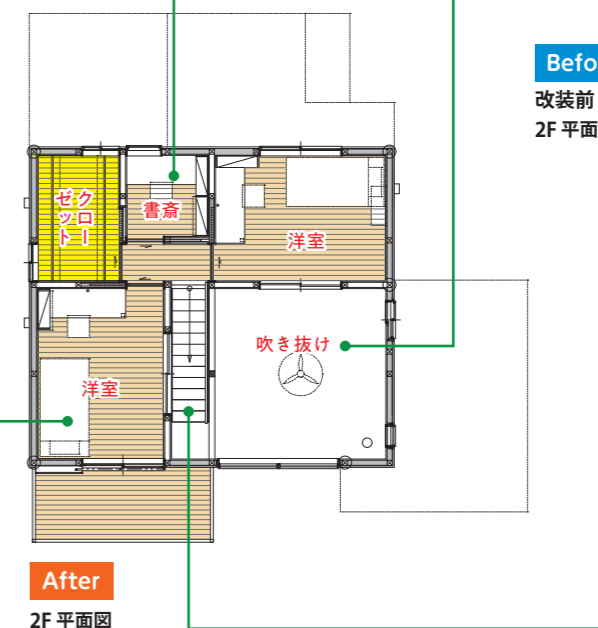


書斎 2帖のご主人の書斎。お気に入りに入れられて過ごす時間は格別。コンパクトにぎゅっと趣味が詰まった空間。



子供室 白を基調として、可愛く清潔感のある部屋になった。元々6帖の和室だった部屋を洋室に変え、机と本棚をつくりつけた。

吹き抜け 2階から吹き抜けを眺める。ダイニングテーブルを中心に、土間空間や薪ストーブ、階段の様子が良く分かる。吹き抜けは単に高い天井ではなく、家の核として家族を結びつけてくれる空間となる。



Before
改装前
2F 平面図

After
2F 平面図



階段 コロラボ定番のアイアン階段。鉄板や丸棒を加工して、手づくりで階段を製作している。踊り場に吊るしたペンダントライトは、奥さんのこだわりのラジオハウスペンダント。真鍮とガラスのコンビがとても綺麗な照明器具。

新旧の融合 新築に負けない 心地よさを求めて

改修工事は、一般的にリフォームと呼ばれるが、リノベーションと呼ばれることもあります。リフォームはキッチンや浴室などを新しくしたり、床や壁を張り替えるなどの簡単な工事の場合に使われます。それに対し、耐震工事や断熱工事を行ったり、間取りを変えたりする大掛かりの工事をリノベーションと呼ぶ事が多いと思います。私たちも様々な依頼があり、時にはキッチンだけ工事させていただいたり、一部屋だけ床を張り替えたりする工事も行わせていただいています。せっかく当社に頼んでいただければ、単に綺麗にするだけの工事ではなく、素材にこだわり、心地よい暮らしが出来るように提案しています。今回のKさんの計画は耐震工事や断熱工事なども行った大掛かりなリノベーションでしたが、床や壁、天井に無垢の木をふんだんに使い、また、タモの無垢材を使ったキッチンや、青森ヒバを使った浴室など、新築で使用する素材と同じく、快適に暮らしていただける内容で提案しました。リフォームの場合、キッチンや浴室に既製品を利用したり、また、床や壁などはフローリングやクロスなど、その場所だけを綺麗にする工事もありますが、Kさんのお宅では、改修工事であつてもトータルでバランスのとれた住まいをつくりたいと思われました。既存の窓や構造体など、時には新しい素材や空間に対して不自然に見えてしまう事もありますが、無理なく見えるように調整したり、または大胆に室内に現したりしながら全体の空間をつくっていきましました。Kさんご家族にとつては、新しい物も古い物もどちらもあつて当たり前で、逆にそれらの結びつきが大切だと思われました。今回の工事で室内は大きく変わりましたが、所々に思い出を残し、ご両親の残してくれた住まいを大切にしながら、これからの新しい生活を楽しんでいただきたいと思います。

仕様内容

家族構成	家族4人
屋根	和瓦(既存使用)
外壁	ガルバリウム鋼板角波タテ貼(一部既存使用) ・マサ土掻き落とし仕上げ
外部建具	アルミサッシ(一部既存使用)
天井仕上	杉本実張り 厚12mm 青森ヒバFJ 本実板張り 厚15mm
壁	漆喰塗り・クロス貼り
床	栗本実板・青森ヒバFJ 本実板・杉本実板
内部建具	木製オリジナル建具
キッチン	ステンレスパイプレーション天板 オリジナルキッチン
洗面化粧台	既存洗面化粧台使用
浴室	オリジナル浴室 (壁・天井: 青森ヒバFJ、床: ハーフバス)
竣工	令和5年3月

私の好きな 愛い道具たち vol.10



うつわ暮らしの道具テクラ
店主 宮入由起

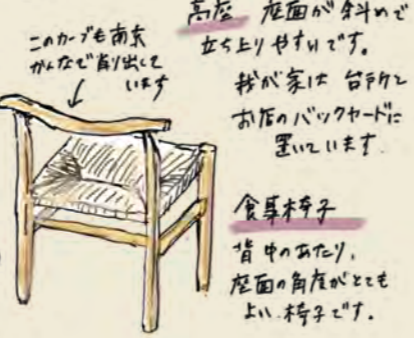
静岡市葵区で仕事の商品をみなさまにお届けするお店を営んでいます。主人と2人の女の子が暮らし、夢は旅をしたから絵本を書く旅日記を出版すること。仕事も暮らしも染み込ませたい。

みなさん、こんにちは。テクラの宮入由起です。今回ご紹介させて頂くのは、「座席編みの椅子」を作られている enno 大橋カサさんです。大阪出身、木工を教えるお仕事での「縁？」矢野県丹波篠山へ移住されました。「人の暮らしの系図の下の力持ちになりたい」とその思いから「^{enno}」の屋号で椅子を中心とした家具づくりをおこなわれています。自ら、地元の木材の市場へ行き栗材を仕入れ、製材所へ行き、木材の特性を生かすような木材料の使い方をし



11ます。木部の仕上げには南京がんなを使い、型を削り出し、座面も1台ずつペーパーコートと呼ばれる国産の紙を使い、糸通しをしています。

大橋さんの座席編みの椅子はふくらと優しい座り心地が特徴です。当店の椅子の展示がありますので、是非お試しいた下さいませ。



うつわ暮らしの道具テクラ

Instagram @tekura_miyairi @tekura2013yk(私) @miyairiyuki(イラスト)

静岡市葵区大岩1丁目1-25 054-246-2856

OPEN : 13時~17時
CLOSE : 火・水 その他有

ア・テ・スエ!



蓮華寺池公園の池のほとりにあるフェアトレードやオーガニック商品のセレクトショップです。店名は、フランス語で『あなたの願いがかないますように』という意味で、文字通り、環境や人にやさしく、みんなが幸せになれる商品を、衣類から食品まで多数ご紹介しています。おすすめは、秋冬限定販売のフェアトレードチョコレート。原材料はすべてオーガニックで、さらに添加物不使用。本当のカカオのおいしさをご賞味ください。

[住 所] 藤枝市若王子1-481-4 ASUHA 1F
[TEL] 090-9678-3702
[OPEN] 10:00~18:30
[定休日] なし

[SNS] Instagram: @ates_souhais
Facebook: @Atesue



縁 (えん)



藤枝市大洲中学の近くで、焼菓子やパンの予約販売や、パン教室をしています。予約販売の中でも、グラノーラのご予約の方が多く、縁のグラノーラはナッツがゴロゴロ入っていて、食べ応えも良く、忙しい朝にもおすすめです。また、小腹が空いた時のちょっとしたつまみみたいという時にもおすすめです。グラノーラのご予約は、毎週または隔週でのご注文がお得です。プレゼント用にもご対応いたしますのでご相談ください。

[住 所] 藤枝市大洲4-13-1
[TEL] 090-6768-8018
[OPEN] 予約販売日はInstagramにてご確認下さい
[定休日] 火曜日 他不定休あり

[SNS] Instagram: @entomoko



「コロラボ設置店」より...



「KoKolab」
Facebook ページ



Instagram
@kokolab.ie



KoKola**b**.

隔月刊 ココラボ通信 No.105

2023年10月発行

発行人 有限会社ころ木造建築研究所
代表 山崎健治

〒427-0011 静岡県島田市東町1047-2

TEL : 0547-54-4556

FAX : 0547-54-4557

http://www.kokolab.jp

E-mail : office@kokolab.jp

担当

山崎良江(「ココラボ通信設置店より…」担当)

編集 … Branch 村上幸枝

印刷所 … 松本印刷株式会社

※本誌記事の無断転用や
コピーを禁じます。



[購読を希望されます方へ]

当社ホームページのお問合せフォーム又はTEL、FAX、
E-mailのいずれかでお申込み下さい。

年間購読料…1,200円 / 一冊定価…200円

(上記料金は送料費として頂いております。)

※当社、もしくは通信設置店では、無料配布しています。

会社概要

当社は、地域木材と職人の伝統技術を用いて木の造り
を行っている設計事務所です。隔月発行の『ココラボ通
信』、また『こころばスクール』やイベントなどを通し、住
宅や暮らしを取り巻く様々な情報を発信しております。

編集後記

秋の食べ物色々ありますが、私の楽しみは栗きんとん。以前岐阜県に行ったときに見つけた栗きんとんのお店が記憶に残り、この季節になると思い出します。栗は食べても美味しいですが、床板や家具など、建築材料としても優秀で、腐りにくく、東北地域では土台にも使われています。今回ご紹介した『移ろいの家』のKさんのお宅の床板や階段の板にも使用し、ココラボでは定番の木材となっています。家づくりに使う木材も様々ですが、古来から日本人の暮らしに密着した栗は、とても親しみやすく、特別な思いも感じますね。私も大好きな木なので、これからも大切に使用していきたいと思っています。

(山崎健治)



Information

🏠 静岡市『凛の家』完成現場見学会を行います。

8月下旬に建前を行い、天気にも恵まれて順調に工事が進んでいます。職人の手仕事の多いココラボの家づくり、大工さんを中心に、板金屋さんや設備屋さん、建具屋さんなどの職人が入っています。ココラボの職人はいつも同じメンツのワンチーム、お互いの仕事の様子もわかり、助け合いながら進めています。年末の完成に向けて、チーム一丸となって良い家づくりを進めていきたいと思っています。

◆ 日時：2023年12月中旬(土・日) 10:00~17:00(予約制)

※詳細日程はHP、またはSNSでご確認ください

◆ 場所：静岡市

🏠 島田市『ベリーの家』構造現場見学会を行います。

恵まれた敷地にスキップフロアの平屋を計画しました。平屋の家はバリアフリーで動線が良い反面、空間が単調になったり、個々のプライバシーがやや取りにくいという面もあります。Mさんのお宅は、二人のお子さんの部屋を1m程スキップさせ、ちょっとした変化を楽しむ空間を提案し、また、家事動線や収納も充実させ、毎日を心地よく過ごせる間取りとなっています。

◆ 日時：2023年11月下旬(日) 10:00~17:00(予約制)

※詳細日程はHP、またはSNSでご確認ください

◆ 場所：島田市

※見学会の詳細情報はココラボホームページ [http://www.kokolab.jp] でお知らせします。

※コロナウィルスの影響により、開催の変更がある場合があります。ホームページにてご案内いたします。

木の家相談会 & 『こころばの家』オープン日

毎月 第1土・日開催

当社では、毎月第1土曜・日曜に、「木の家相談会」と「木の家常設展示場見学会」を行っています。現場見学会などで実際の建物を見ることは出来ますが、生活をイメージしたり、ゆっくりと座って話を聞くことはなかなか難しいものです。家づくりが具体的で無い方も、またリフォームを検討している方も、まずは一歩踏み出して、実際の木の家に触れたり話を聞いてみてはいかがでしょうか？ きっと今後につながるヒントが見つかると思います。

◆ 木の家相談会

家づくりは何から始めたらいいの？ と相談される方が多くいますが、家族構成や敷地条件などによって様々な入り口があります。また私たちが行っている木の家は、木材をはじめとした自然素材の使い方によっても建物の性能や雰囲気が変わっていきます。木の家相談会では、経験豊富な建築士が個別相談を行い、一人一人に合った、様々な問題について相談を受け付けています。家づくりは一歩踏み出すことから始まります。この相談会を利用して気軽に何でもお訪ね下さい。

◆ 木の家常設展示場オープン日

『こころばの家』見学

2つの『こころばの家』は、同じ木の家ではありますが、それぞれ違ったテーマでつくられています。敷地環境や家族構成、空間のつくり方や素材の選択など、自分たちに合った暮らしを探す中で参考になればと思います。毎月第1土曜、日曜をオープン日とし、展示場を見学していただく事が出来ます。ホームページ内の申し込みフォーム、またはお電話でご予約下さい。

◆ 日時：11月4・5日(土・日)

12月2・3日(土・日)

10:00~17:00(予約制)

◆ 場所：『こころばの家@静岡』

静岡県駿河区新川2丁目5-29 電話：054-270-7658

『こころばの家@島田』

島田市東町1370-4 電話：0547-54-4556

